



脳のしわと、頭のよさには関係があるの

大脳皮質の表面は、新聞紙1ページの面積

人間の脳皮質の表面は、複雑なしわ状になっていて、しわを広げると、新聞紙1ページの面積と等しいといわれています。

これは、大脳皮質に、約140億の神経細胞（ニューロン）と、約400億のグリア細胞を入れておくだけの、表面積が必要だからです。

クジラやイルカの脳も、しわの多いことで知られており、ほかのほ乳動物の場合には、大脳の表面のしわが少ないことから、「大脳の表面のしわが多いと、頭がいい」と、脳のしわと、頭のよさには関係があるように、いわれているのです。

大脳のつくりと、大脳皮質のはたらき

大脳は、外側から、大脳皮質、大脳へんえんけい、大脳きていかくの、三つの部分となり、脳全体の重さの、約80パーセントが、大脳の部分です。

複雑なしわをつくって、外側をおおっている大脳皮質には、厚さ平均2.5ミリメートルの層の中に、約140億の神経細胞（ニューロン）と、約400億のグリア細胞があり、思考（考える）、創造（作りだす）、判断、言語などの知的活動や、運動、感覚などを、担当しています。（監修・保志 宏）

